Co-Labo
コ・ラボ

川口市男女共同参画情報紙

NO 通巻.53
2015.9

特集記事

男女共同参画の視点から防災を考える

Interview

川口市立里保育所

木全 美奈子さん　佐藤 太一さん　榊 亮栄さん

表紙イラスト：川口市立青木中学校美術部
3年　内田 有香さん

特集

男女共同参画の視点から防災を考える

東日本大震災など過去の災害において、避難所の運営側に女性が少なかったことから、女性や乳幼児、高齢者等への配慮に欠けた点が多くあり、男女双方の視点を防災・災害復興に反映させる必要性が指摘されました。

これらの経験を踏まえ、平成25年5月、内閣府は「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」を作成・公表しました。川口市でも「川口市地域防災計画」に「男女共同参画の視点への配慮」という項目を盛り込み、「第2次川口市男女共同参画計画」にも、「男女共同参画の視点に立った防災対策の推進」を課題のひとつとして掲げています。

3.11経験者の声です

災害が起こった！ 避難所に避難したけど…

「更衣室・授乳室がなくて困った」「洗濯物干し場が1か所で下着を干すのに抵抗があった」「子どもが周囲に迷惑をかけるのではないかと気を遣った」「生理用品、おむつ、粉ミルクがない」「生理用品を男性にもらいに行くのは恥ずかしかった」「トイレ（特に女性トイレ）が足りなくて長蛇の列だった」「照明がないトイレ、男女別になっていないトイレは夜行くのが怖かった」「男性は力仕事、女性は食事準備など、性別で役割が決まっていた」「男性は早く仕事復帰し、がれき処理などの作業にも日当が支払われるのに、女性は無償で避難所の炊き出しをしなくてはならないのが不公平だと感じた」

災害時には人命に関わることが最優先とされ、細かいケアが後回しになりがちです。様々な立場から意見を出し合い、災害時に活かせるよう、日頃から準備をしておきましょう。

日頃から男女共同参画を意識することが大切！

災害が起こる前に…

防災対策に男女共同参画の視点を反映させましょう！

- 自主防災組織や消防団、防災訓練などの活動に、男女とも積極的に参画しましょう。
- 地域防災計画などの策定に意見を出す機会があったら、男女双方の視点から、積極的に意見を出しましょう。
- 地域のネットワークやご近所付き合いから、それぞれの家庭に応じたニーズを把握しておきましょう。
- 外国人、障害者等、地域で助けが必要な人を把握し、情報の伝達方法を考えておきましょう。

災害が発生した時は…

避難所の運営や復興対策に、男女共同参画の視点を活かしましょう！

- 運営スタッフは、男女両方で構成しましょう。
- 物資の配布担当に女性も配置しましょう。
- 避難所に授乳室、男女別のトイレ・更衣室・洗濯物干し場を設けましょう。
- 単身者・乳幼児連れ・男性のみ・女性のみなど、世帯構成によってエリアを設置する、間仕切りを設けるなど、安全・安心なスペース作りをしましょう。
- 作業の担当を男女で分けず、個人の能力に応じて活躍できるようにしましょう。
- 女性や子どもへの暴力防止のため、巡回や防犯ブザーの配布などを行いましょう。
- 避難者の心身の健康を守るため、相談窓口を設けましょう。

9月1日は防災の日です。男女共同参画の視点を意識して、改めて防災について考えてみましょう。

川口市での取り組み

「外国人対象の防災訓練講習会」

避難所受付のシミュレーション

2月28日(土)　キュポ・ラ本館棟M4階
主催：川口市　共催：社会福祉法人 川口市社会福祉協議会主催(かわぐちボランティアセンター)
協力：NPO法人川口市民防災ボランティアネットワーク　在住外国人サポートネットワーク

川口市は埼玉県内で最も外国人人口が多い市です（外国人26,515人／人口総数591,482人※）。そのような現状も踏まえ、市内在住・在勤外国人を対象とした防災訓練に、地区の避難所運営関係者、男女共同参画関連団体の関係者が参加して、多様な視点を盛り込んだ防災訓練講習会が開催されました。

第1部では、避難所の受付、炊き出し、仮設トイレの利用についてシミュレーションを行い、第2部でそれぞれの立場から意見交換を行いました。※平成27年7月1日現在

食事の配布をどうすればよい？

意見を出し合いました

―主な意見です―

外国人参加者
「日本人の使う日本語(敬語)は難しい」「母国語を聞くと安心する」「高齢者・弱者を助けるために皆で協力することが大切」「非常持出品を用意しようと思った」「絵の説明はわかりやすいが、文章はわかりにくい」

地域ボランティアからの参加者
「各国の言葉や絵で説明できる資料があると便利」「避難所名簿に国籍欄があるとよい」「宗教への配慮も必要」「心配事が皆それぞれ違うのだと気づいた」「日頃から行政と住民が関わっていることが大切」

災害時、避難所の具体的な運営は、地域の自主防災組織が主体となって行われます。地域にどのような人がいるか、一緒に避難所生活を送るうえで何が必要か、日頃から考えておくことの大切さを学びました。

ご存知ですか？ 川口市ハザードマップアプリ

見ている風景にスマートフォンやタブレットの画面をかざすことで、今いる場所の被害予想、最寄りの避難場所・避難所情報等を確認できるアプリです。平常時から、よく行く場所の危険性を把握しておくことで、災害発生時にどのような行動をとったらいいかシミュレーションしやすくなります。

実際外で使ってみると、自分の居場所によって、あるいは災害の種類（地震／洪水）によって、その場所の危険度や最寄りの避難場所等が変わることがわかります。また、GPSと連動しているので、避難場所の方向や、現在地からの距離もとても見やすくなっています。

― 使ってみて ―

最初は意識的に使うようにしていましたが、何度か使っていると、出かけるたびに「ここはどうだろう？」とアプリを確認するようになりました。

防災は日頃の心掛けが大切。お子さんやお友達と一緒に、自宅や学校付近、お店や公園など、いろいろなところでアプリを開いてみてはいかがでしょうか。楽しく会話をする中で防災意識も高めていけるといいですね。（K.O.）

○災害を事前に学ぶためのハザードマップアプリ
http://www.city.kawaguchi.lg.jp/kbn/08200088/08200088.html
担当：防災課　TEL048-242-6358

Gender Equality Interview

近年、保育・子育ての場で活躍する男性が増えています。
今回は２名の男性保育士がいる里保育所の皆さんにお話を伺いました。

川口市立里保育所

KIMATA MINAKO
木全 美奈子さん

SATO TAICHI
佐藤 太一さん

SAKAKI RYOUE
榊 亮栄さん

◆大学をやめて方向転換

榊さん：もともと子どもが好きでしたが、男性保育士を主人公にしたテレビドラマを見て、「男性でもなれるんだ！」と思ったことが保育士を志したきっかけです。

佐藤さん：就職活動をしていた年に、保育士が国家資格になったことを知りました。人と関わることが大好きで、親戚の子ども達とよく遊んでいたこともあり、保育士を目指してみようと決意。当時通っていた大学を中退し、資格を取れる学校に入り直しました。

家族の理解を得るまでに時間がかかったけれど、今では応援してくれています。

◆男性も女性もいるのが自然な環境

佐藤さん：私は3歳児クラスから5歳児クラスまでフリーで関わっているので、それぞれの年齢ごとに成長を感じることができて嬉しいです。

保育士の仕事は、子どもたちの可能性を育む最初の一歩だと思っています。

榊さん：女性と同じようにやらなきゃと思うと、行き詰ったり悩んだりしてしまう。男性・女性という視点ではなく、「自分だからできること」「自分ならではの保育」という視点で考えるようにしています。

自分が小さい頃好きだった先生、憧れていたヒーローみたいな存在になれたらいいなと思います。

木全さん：家庭や社会には男女がいるように、保育士にも男性・女性両方いるほうが、子どもにとっては自然な環境なのではないでしょうか。

それぞれができることをやって、自然に助け合っていければいいのだと思います。

◆後に続く人たちのモデルになりたい

佐藤さん：まずは、男性でも保育士という職業の選択肢があることを、多くの人に認識してもらいたいです。

榊さん：各保育所に一人ずつでも、男性保育士がいるようになるといいですよね。

今は 30 代、40 代の男性保育士が身近におらず、自分がどう歳を重ねていくのか、分からないことも多いです。

自分がこれから後に続く人たちのモデルになればとも思っています。

木全さん：本当に、二人ともこれからが楽しみです。私も産休・育休を取得して、子育てしながら仕事を続けてきました。

今後もずっとこの仕事に関わっていきたいと思っています。

補足
男女雇用機会均等法では、男性または女性を表す語を含む職種の名称を用いることが禁止されています。
例：保母・保父→保育士　スチュワーデス→客室乗務員
看護婦→看護師

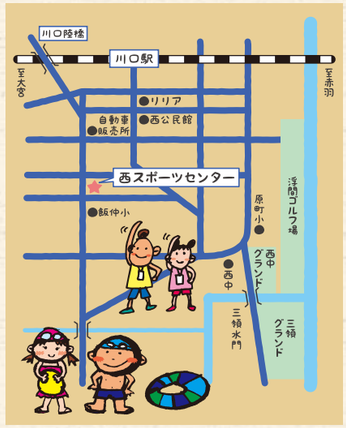
左から　榊さん、
木全さん、佐藤さん

取材を終えて

保育士は「次世代を育てる種を撒くような仕事（木全さん）」ともおっしゃるように、皆さん仕事に誇りを持ち、男性・女性という垣根を超えて、いきいきと活躍されていました。（M.W.）

Kawaguchi Cafe MENU Pick UP

Spot 西スポーツセンター 室内温水プール



川口市川口6−9−29　TEL 048−251−6377
JR川口駅西口徒歩15分

ウォータースライダーが大人気！

１周100メートルの流水プール、ウォータースライダー、マウンテンスライダー、幼児プールなど、珍しい種類のプールが充実しているので、子どもたちや家族連れに大人気です。ウォーキングコースを備えた25メートルプールやジャグジーもあり、大人の健康づくりにも役立ちます。

室内なので天候を気にせず水泳や水遊びを楽しむことができ、これからの季節は穴場かもしれません。ご家族・お友達を誘ってみてはいかがでしょう。（Y.Y.）

利用料金（２時間）一般＝２８０円、中学生・高校生＝１８０円、小学生以下＝１００円
休館 年末年始及び毎週火曜日

Books 防災・復興のためにわたしたちができること

災害時に役立つサバイバル術を楽しく学ぶ
防災ピクニックが子どもを守る！
MAMA-PLUG 編
KADOKAWA メディアファクトリー 著

楽しいアウトドア経験で、家族の防災力をアップ！

本書では、家族で楽しみながらできる防災術「防災ピクニック」を提案しています。
子どもたちとピクニックに出かける気分で避難ルートを歩き、弁当の代わりに非常食を食べてみる。防災装備品のチェックリストも漫画や写真で分かりやすくまとめてあります。
“備えあれば憂いなし”のおススメ図書です。

復興に女性たちの声を ―「3・11」とジェンダー
村田晶子 編著　早稲田大学出版部

新たな平等社会をめざして

避難所、仮設住宅、復興行政など、災害復興に関わる様々な場面で、女性たちの声はなぜ聴かれないのでしょうか。男女共同参画の視点から、災害復興の場で女性がどうすれば主体となっていけるか、国内外における近年の取組みや被災者支援における女性センターの役割などを提言し、まとめた解説書です。

Data 地域防災に女性の声を
（地方防災会議の女性委員割合）

地方防災会議とは、都道府県と市町村に災害対策基本法に基づいて設置され、地域の防災計画などについて審議する組織です。
東日本大震災の経験を踏まえ、国は平成24年6月に災害対策基本法を改正し、女性を含む多様な立場の人が防災会議のメンバーとなれるよう、指針を作成・公表しました。
これを受け、翌年の調査では女性委員のいない都道府県防災会議の数が初めてゼロとなり、女性委員の割合も過去最高となりました。市町村防災会議でも、都道府県防災会議と同様に、女性委員の割合を高めることが求められています。

ランキング	都道府県	女性割合（H26.4）	女性割合（H24.4）
1	徳島県	40.6%	18.9%
2	鳥取県	40.3%	16.7%
3	佐賀県	29.4%	5.8%
4	島根県	25.4%	6.1%
5	新潟県	24.3%	20.0%
6	青森県	17.2%	8.2%
38	埼玉県	5.8%	4.8%
39	山梨県	4.9%	1.8%
40	愛知県	4.1%	0.0%
46	東京都	3.0%	0.0%
47	広島県	1.7%	0.0%
	平均	12.1%	4.6%

川口市　10.9%
市区町村平均 7.1%

内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」より

Mission

市民編集委員に告ぐ！

「川口市男女共同参画のつどい」に潜入せよ！

講師：久瑠（くる）あさ美氏

募集定員を超える 502 名の来場者のなか、メンタルトレーナーとして活躍中の久瑠あさ美氏を講師に迎え、「人間関係が良くなる心の法則」をテーマとした講演会が開催されました。

「性格は変えられない。変えなくてよい」という言葉にはじまり、人と関わるうえでのヒントがたくさん。人には顕在意識と潜在意識があり、潜在意識は人間の意識の 97% を占めるにもかかわらず、多くの人が活用できていないとのこと。人それぞれの目標や夢を達成するためには、その潜在意識（潜在能力）を引き出して活用することが成功の鍵だと、具体例を織り交ぜてお話しされていました。

熱心に聞き入っていた皆さんも、潜在意識を夢達成のための「種」として感じたのではないでしょうか。（M.W.）

会場の様子

男女共同参画パネルの展示もありました

男女共同参画週間って？

国の男女共同参画推進本部では、「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの１週間を「男女共同参画週間」と定めています。

期間中、国や自治体では様々な取組を実施し、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

イベントREPORT！

こんなイベント行ってきました！

編集委員レポート

注目の『霞が関キャリア女子』が語る ニッポンのこれから、そして働く女性のミライ

WOMAN EXPO TOKYO 2015　5/24(日)　in 東京ミッドタウン

深夜まで続く国会対応など過酷な長時間労働が続き、多忙を極める人も多い霞が関での仕事。そんな霞が関にある官庁の第一線で活躍しながら、子育てをしている女性３名の講演を聴きました。

夫や実母、保育所などの協力を得て、仕事と育児を両立している澤井さん。「仕事も家事・育児も、一人ではやらない・やれない・やるべきではない」という言葉が印象的でした。一度は退職を決意したものの、「できるところまでやってみよう」と仕事を続け、二児の母となった河村さんは、笑顔で感謝の気持ちを伝えることが、職場の同僚の理解を得るコツとのこと。産後９ヵ月で職場復帰した福地さんは、出産前の働き方に戻すことを考えていたものの、実際は保育所の受け入れ問題などで思い通りにはならなかったといいます。

３名とも、「辛いことは辛いと伝えること」「周囲の人の理解を得ることが大切」という意見が共通していました。また、仲間を見つけて働きかけることで、社会全体の働き方も変えられるのではないかとも。

いきいきと語る３名のお話を聴いて、仕事と子育て、どちらも諦める必要はないのだと、改めて実感しました。（K.K.）

《パネリスト》左から
澤井景子さん（内閣府 男女共同参画局 男女共同参画推進官）
河村のり子さん（厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 雇用均等政策課 課長補佐）
福地真美さん（経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室長）

写真／中村嘉昭

参考：「霞が関で働く女性職員の有志による提言」 http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/teigen.html

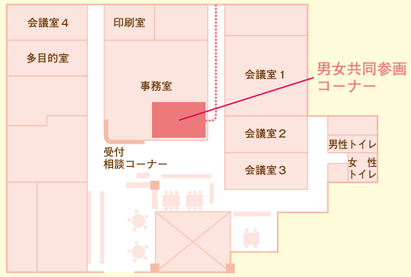
○男女共同参画コーナーのご案内

川口駅東口キュポ・ラ本館棟 M４階に「男女共同参画コーナー」を開設しています。

当コーナーでは、市民の皆様に男女共同参画について理解を深めていただくため、国や県、川口市の取組みの資料、セミナーの開催案内や男女共同参画関連の書籍等を配布・展示しています。

「Co-Labo コ・ラボ」の編集会議もここで開催しており、バックナンバーを見ることもできます。

かわぐち市民パートナーステーションフロアマップ



※H27.4.1 ～組織改正により コーナーの場所が変わりました！

○ＤＶに関する相談先

川口市役所（男女共同参画担当） ※女性相談員による電話相談	
第２・第４水曜日（祝日の場合は翌日） 13：00～15：00	0120-532-317
川口市役所（市民相談室） ※相談業務全般	
月～金（祝日・年末年始を除く） 8：30～16：30	048-258-1110
埼玉県婦人相談センター ＤＶ相談担当（配偶者暴力相談支援センター）	
月～土／日・祝日（年末年始を除く） 9：30～20：30／9：30～17：00	048-863-6060
埼玉県男女共同参画推進センター・WithYou さいたま（配偶者暴力相談支援センター）※女性に関する相談全般	
月～土（第３木曜日・祝日・年末年始を除く） 10：00～20：30	048-600-3800
最寄りの警察署（生活安全課）	
随 時	川口警察署 048-253-0110 武南警察署 048-286-0110
埼玉県警察犯罪被害者支援室（犯罪被害者相談センター）	
月～金（祝日・年末年始を除く） 8：30～17：15	0120-381-858
さいたま地方法務局人権擁護課（女性の人権ホットライン）	
月～金（祝日・年末年始を除く） 8：30～17：15	0570-070-810

配偶者や恋人など親しい間柄で行われる暴力行為をＤＶといいます。殴る・蹴るだけが暴力ではありません。

- ☐ 何を言っても無視する
- ☐ 交友関係を制限する
- ☐ 避妊に協力しない
- ☐ 性行為を強要する
- ☐ 生活費を渡さない
- ☐ 暴言を吐く

☑（チェック）が ひとつでもついたら、DVかもしれません。
一人で悩まずに、まずはご相談ください。

男女共同参画苦情処理委員制度について

川口市男女共同参画推進条例第 14 条の規定に基づき、市が実施している男女共同参画の推進に関する施策または男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる施策等に対して、市民の皆さんから苦情の申出や意見の提出ができる制度です。詳しくは、市ホームページをご覧いただくか、男女共同参画担当にお問い合わせください。

http://www.city.kawaguchi.lg.jp/kbn/04017051/04017051.html

川口市「Mr.イクメンの星☆」
フォトコンテスト作品募集中！
～イクメン＆イクジイの写真を大募集！～

イクメンとは･･･「自ら積極的に育児に関わる男性」のこと。　イクジイとは･･･「孫世代の育児に積極的に関わる男性」のこと。

「パパにまかせて!」「ママより上手!」「仕事も育児も頑張るよ!」「こんなこともやってます」「大変だけど幸せな時間･･･」などなど、育児の楽しさ、難しさ、大変さ…etc.が伝わってくる写真をお待ちしております。

※入賞作品については、市内施設のほか、埼玉県内の公共施設等で掲示することがあります。
また、受賞作品は市ホームページ、情報紙等に掲載することがあります。あらかじめご了承ください。

平成26年度　大賞
『パパの背中でスヤスヤzzz』

平成26年度　イクジイ賞
『はぁちゃん2才!』

募集要項

日常的に、積極的に、育児をしていることがわかる写真

■応募資格
川口市に在住または在勤の「我こそはイクメン!」「我こそはイクジイ!」と自信をもって宣言できる男性。
★子どもの年齢は応募日現在0歳～未就学児まで
★写真は1年以内に撮影したもの

■応募方法
応募用紙に、2L判サイズ（127㎜×178㎜）の写真を添えて、かわぐち市民パートナーステーション男女共同参画担当まで郵送または直接持参。応募用紙は、男女共同参画コーナーで配布。市のホームページからダウンロードも可。

■応募締切
平成27年11月20日（金）必着

■発表
平成28年2月13日（土）
リリアで開催する「男女共同参画フォーラム」で応募作品の展示と受賞作品の表彰を行います。

事務局
川口市 市民生活部 かわぐち市民パートナーステーション 男女共同参画担当
〒332-0015 川口市川口1－1－1 キュポ・ラ本館棟M4階
TEL 048（227）7605　FAX 048（226）7718

編集後記

市民編集委員
小川加代子・北浦和季
丹波かよ子・中川幸子
山口泰博・湧井甫幸
※五十音順

◆災害への備えや情報の収集、また地域コミュニティへの参加についてなど、もっと家族で話し合い、事前に取り組んでいきたいです。(K.O.)◆地震だけでなく、火山活動の活発化も心配な今日。いざというときに男女共同参画の視点で行動できるよう、日頃から意識していきましょう。(K.K.)◆普段忘れがちな『防災』。子を持つ身としては無関心ではいけないのに、ついつい後回しに。意識を変えるきっかけになりました。(K.T.)◆災害発生から日が経つと意識が薄れがちです。今回の特集で、日頃の準備が大切であることを再認識しました。繰り返しの啓発が必要ですね。(S.N.)◆小欄に登場するのも本号を除けばあと1回。偏りのないよう全コーナーを体験しようと思ったが、まだ未体験コーナーが二つも残っている。果たして欲張ることができるのやら…。(Y.Y.)◆今回は、仕事大好き、仲良しな里保育所のインタビューと男女共同参画のつどい講演会を聴くことができました。毎回知らない世界を発見し、楽しくなります。(M.W.)

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。